

【別紙】 「クラスB」 通信及び利用イメージ

従来はLoRaWAN™※1の通信方式として、端末・センサー等からサーバーへのアップリンク通信をトリガーとして通信を行う「クラスA」が一般的であったが、この度、**世界で初めて※2サーバーから任意タイミングでダウンリンク通信を可能とする「クラスB」**の商用提供を開始する。LPガス業界においてはスマートメーター導入にあたり、遠隔検針だけではなく、地震等の災害発生時や緊急時にガス供給を能動的に停止する等、**センター側からのメーターへの通信（ダウンリンク）が必要**であり、**LoRaWAN™の「クラスB」通信が有効**である。

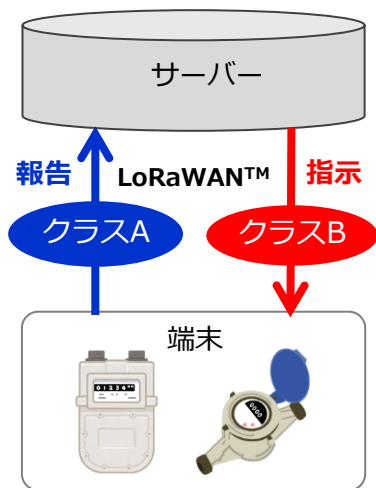
※1 半導体メーカーのSemtech Corporation、IBMなどの「LoRa Alliance」メンバーが策定したIoT向け通信規格のひとつ。LoRaWAN™の名称は、Semtech Corporationの商標です。

※2 「クラスB」通信の商用提供は世界においてNTTネオメイトが初。2017年11月2日 Semtech Corporation調べ

■ LoRaWAN™通信方式

通信方式	通信	電力	用途
(従来) クラスA	アップリンク※3通信トリガーでダウンリンク※4通信	電池駆動 (電力消費 低)	データ収集中心 (センサー情報・ステータス・機器ログ・エラーコード等)
クラスB	任意のタイミングでダウンリンク通信が可能※4		遠隔制御 (センターからの指示・開閉栓・ON/OFF等)
クラスC	常時アップリンク通信やダウンリンク通信が可能	電源駆動 (電力消費 高)	クラスA・Bと同等

※3 アップリンク・・・端末からサーバーへの通信 ※4 ダウンリンク・・・サーバーから端末への通信



■ LPガス遠隔検針における利用シーン（災害時の対応）



* ニュースリリースに記載している情報は、発表日時点のものです。現時点では、発表日時点での情報と異なる場合がありますので、あらかじめご了承くださいとともに、ご注意をお願いいたします。